

# 事業のタネシート

活動地域・団体名：多賀町大滝地域・多賀町

## 事業名称 1：地域の資源を活用した食の発信事業

あらすじ

持続可能な地域循環には、地域資源を活かす場の確保が必要であり、付加価値の創出、他地域との差別化が重要である。おいしいと評判の大滝小学校の給食をモデルに食事メニューを開発、事業を展開し、地域経済を活性化させる原動力を創出する。

ストーリー

多賀町では、扇状地で採れるおいしい米、多賀にんじん、多賀そばなどのブランド農作物があるが、それ以外にも自然資源として、川魚、しいたけ、はちみつ、山菜などがあり、それらを活用し高付加価値化ができる事業が考えられる。地域には高齢者サロンの担い手がおり、若者や地域外の人との交流が生きがいづくりにつながる。また、農林資源を活用することで、農業の担い手の増加、耕作放棄地の利活用、森林の保全が促進すると期待できる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	自然から生み出される資源を活用した地域経済の良好な循環と大滝地域の魅力が発信され、住民と地域外の人との交流・関係機会が増加し、自然環境の保全が進んでいる。	・中山間地は獣害により、農業の担い手が不足、耕作放棄地が増加している。獣害の少ない町内平地の農業者との連携が必要となっている。 ・弁当づくりや配食サービスの人材確保が課題である。
②課題	大滝地域で地域の食材を活用した飲食店がほとんどなく、資源が外部に流出している。また、高齢化が進み、買物・交通弱者が増加している。	
③なぜこの事業をやるのか（Why）	地域の農林資源を活用する場を作ることによって、地産地消を推進し、地域経済の循環を促進できる。また、地域住民の生きがいづくりや高齢者の健康増進にも寄与する。	
④地域資源	ブランド農産物、おいしい給食、森林・河川から生み出される食材	
⑤商品・サービスの具体的な内容（What）	大滝小学校の給食をモデルに弁当メニューを開発する。高齢者などに配送サービスを実施する。	
⑥担い手（Who）	地域おこし協力隊、多賀町里づくり魅力化プロジェクト食部会有志（地域住民）、滋賀県立大学学生	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	農林産物の地産地消が進むことによって地域内での資金が循環し、農林業にたいする意識が変わり、農林業が活性化が促進されることで、森林の保全や耕作放棄地の減少が進むと期待できる。	ブランド農作物（多賀にんじん、多賀そば）の生産者、YOBISHIプロジェクト、外部専門家（地域アドバイザー）、地域おこし協力隊、地域づくりに熱意のある大学生
⑧事業で生じる成果	弁当づくりの体制を整え、実績を作れば、活動の認知が進む。ファンを獲得することができれば、将来的にカフェ、農家レストランの開業も可能となる。まず、弁当づくりに注力し、実績を作ることで、地域住民主体の活動への関心が高まり、関わる人も増えていくと期待できる。	

事業名称2：地域商社設立事業

あらすじ

地元住民にとって、あたりまえで何の価値も持たないと思うようなものが、地域外の人にとっては魅力的な場合があり、潜在的な地域資源が存在すると思われる。外部目線による未利用資源の掘り起こしと活用、地域全体のブランディングを行う地域商社を設立することにより、地域経済の循環を進める。

ストーリー

多賀町では、扇状地で採れるおいしい米、多賀にんじん、多賀そばなどのブランド農作物の他、しいたけ、はちみつ、山菜などの森林資源や森林から産出される木材があり、それらを活用して高付加価値化し、都市部へ卸販売する。担い手とし、地域おこし人材やネットワーク構築事業者が考えられる。地域資源を活用することで、持続的に暮らせる仕組みが創出されると期待できる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	自然から生み出される資源を活用した地域経済の良好な循環と大滝地域の魅力が発信され、若い人材が移住・定住して、多くのローカルベンチャーが生まれている。	地域産品の掘り起こしが十分ではなく、魅力ある地域産品の情報発信、ブランドカ・ネームバリューづくり、各種産業団体との連携の検討ができていない。
②課題	担い手不足により森林の荒廃や耕作放棄地が増加している。また、未利用資源の掘り起こしや地域の魅力を情報発信ができていない。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	地域の資源をブランディングし、発信することによって、資源の利活用が進み、地域経済の循環を促進できる。新たに森林の保全や遊休農地の減少に寄与できる。	
④地域資源	ほどよい田舎、森林資源、ブランド農作物、遊休農地	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	町内産品のブランディング、販路開拓を担い、町内の農林産物の都市部での流通を図る。	
⑥担い手 (Who)	地域おこし協力隊、まちづくり活動団体（多賀町里づくり魅力化プロジェクト委員有志を核にした後継団体を想定）	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域のブランド化を進めることによって、規格外の農作物等の未利用資源の利用が促進され、フードロスの削減と外から地域内に流入するお金を増やすことで、地域経済の活性化や森林や農地の保全が進むと期待できる。	ブランド農作物の生産者、多賀森林循環事業協同組合、YOBISHIプロジェクト、地域おこし協力隊、合同会社エヴァワット、多賀森林循環事業協同組合、外部
⑧事業で生じる成果	大滝地域の認知度、ブランド化が進めば、農作物等の活用が進み、規格外野菜の廃棄が減少し、生産者の負担が減少する。また、6次産業化が進み、生産者の所得が向上する。	専門家（地域アドバイザー）、商社ビジネスに知見のある人材、地域金融機関

事業名称 3 : 子育て支援事業

あらすじ

子どもたちの成長は、地域にとっても共通の願いであるが、教育や子育て施策等の公的支援に力を尽くしても、育成した人材が進学・就職で流出していけば、地域経済の負の循環に陥る。地域ぐるみで子どもを育てることによって、地域の愛着が生まれ、進学や就職等で地域外に流出した若者が還流・定着し、人的好循環が生まれる。

ストーリー

進学、就職を機に地域外に流出した若者が、地域に働く場所がないために地元に戻って就職することが難しく、若者の減少が続いている。若者の定着には、地域に働く場の確保が不可欠であるが、同時に生まれ育った地域への愛着心を高める取組も必要となる。地域住民と連携した放課後の居場所づくりを行うことで、ふるさとに愛着と誇りを持つ心豊かな子どもを育み、地域に定着する若者が増加し、コミュニティが持続されると期待できる。

事業の骨子		現時点で想定される課題・ボトルネック
①ありたい未来	大滝地域で育った若者の郷土愛が醸成され、活性化された地域産業により、雇用が創出され、若者が地域内に定着し、地域の活性化が図られる。	場所、学校からの移動手段、実施体制、提供するプログラムの検討ができていない。
②課題	核家族化、少子化が進む中、地域のつながりが希薄化し、地域の中で大人や異年齢の子どもたちと交流する機会が減っている。また、子どもたちが地元でのびのびと学習できる環境が少ない。	
③なぜこの事業をやるのか (Why)	子どもが地域で大人や子ども同士でつながれる場を作ることによって、生まれ育った若者が地域に愛着を持ち、大滝地域の未来を担う人材の定着を促進できる。また、地域住民・参加者同士との交流を促進し、顔の見える関係を築くことができる。	
④地域資源	連携実績のある滋賀県立大学、人情が厚い人的資源	
⑤商品・サービスの具体的な内容 (What)	地域の子どもたちが放課後に安心して過ごすことのできる場をつくり、地域住民と交流できる機会を提供する。	
⑥担い手 (Who)	地域おこし協力隊、滋賀県立大学学生、学校支援ボランティア	課題・ボトルネックを乗り越えるために力を借りたい人物・企業像
⑦事業で生じる循環	地域の愛着が生まれ、進学や就職等で地域外に流出した若者が還流・定着し、人的好循環が生まれる。	地域おこし協力隊、教育に関心のある大学生、地域コーディネーター、外部専門家（地域アドバイザー）、大滝小学校校長、大滝たきのみやこども園園長
⑧事業で生じる成果	地域内に放課後子どもが安心、安全に過ごす場があれば、保護者の負担感の減につながる。	